第6章 道路情報設備

第6章 道路情報設備

第1節 道路情報設備

1. NHL形道路情報表示装置

表 6-1-1 道路情報板の選定指針(参考)

表示板形式	提供内容	設置場所の条件
NHL1形	近距離の情報で比較的単純な案内表示	高規格道路、自専道のIC、 オンランプの入口手前
	II .	通行規制区間の近傍で迂回 路、分岐路の手前
	n .	分岐路、交差点の手前
NHL2形	近距離の情報で、多少複雑な案内情報 (図形)、事象表示、方向案内を提供す る場合	II.
	比較的中距離の情報で、多少複雑な案 内情報(図形)、事象表示、方面案内を 提供する場合	分岐路、交差点に至るまで の一般部
NHL3形	比較的中距離の情報で、複雑な1事象、 比較的単純な案内情報(図形)を提供 する場合	II
NHL4形	比較的長距離の情報で、文章による2 事象の表示を必要とする場合で図形表 示を必要としない場合	幹線道路の分岐路又は幹線 道路どうしの交差点の手前
NHL5形	比較的長距離の情報で、図柄と文字の 組合わせによる2事象を短時間に提供 する必要がある場合	11

1. 道路情報設備に耐雷対策をおこなう場合は、第12章第3節多重無線設備 3「耐雷対策」に準拠するものとする。

2. 設備容量

 NHL1形
 1.0kVA以下

 NHL2形
 1.5kVA以下

 NHL3形
 1.5kVA以下

 NHL4形
 1.5kVA以下

 NHL5形
 2.0kVA以下

3. 電源

単相 3 線式 100/200 V ±10% 60 H z

[1]

出典: 道路表示装置 NHL形表示機V3 機器仕様書(案)(平 成22年6月)

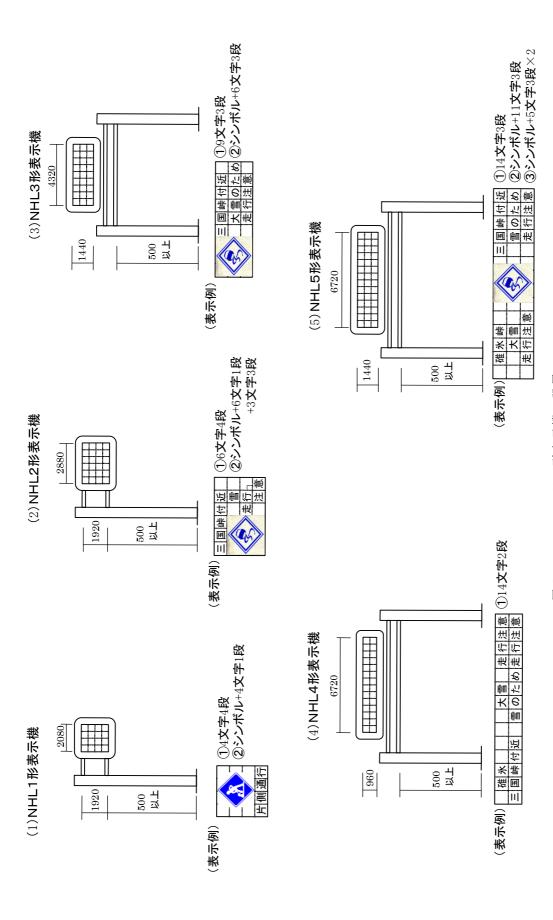


図6-1-1 NHL形表示機の設置

第2節 支柱及び基礎

1. 形状寸法

支柱は、1/100テーパーポールとし、形状寸法は下記の応力算定よりもとめる。

2. 応力の算定

(解 説)

- 1. 強度計算のうち次のものについては、道路標識設置基準・同解説(昭和62年1月発行)の計算方式により行う。
 - (1) 表示板荷重は単純梁分布とし、表示板前後の偏心荷重計算
 - (2) 支柱は風速荷重計算
 - (3) フランジ部分の計算
 - (4) 基礎計算の転倒モーメントには、側面及び底面の土圧の比を考慮した応力計算
- 2. 道路標識設置基準との相違点は、下記のとおりである。
 - (1) 側面ラチスの角度は、数量計算を容易にするため 45°で統一して計算する。
 - (2) 表示板を梁の上部に設置のため、偏心による応力計算とする。
- 3. 荷 重
 - (1) 表示板重量

NHL1形表示板 NHL2形表示板 1,100kg 以下

NHL3形表示板

1,400kg 以下

NHL4形表示板

1,700kg 以下 2,100kg 以下

NHL5形表示板

2,400kg 以下

ただし、点検台・取付金具は含まない。

[3]

出典: 道路表示装置 NHL形表示機V3 機器仕様書(案)(平 成22年6月)

(2) その他の荷重

門形柱 通路、点検台を対象とし、

分布荷重/m 120kg/m

F形柱 点検台、取付金具、保安員(2人相当)を対象とし、

トンネル用 550kg

NHL1形 730kg

NHL2形 780kg

機側操作部(別途体) 必要に応じ実動量を考慮する。